

平成22年 3月31日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19401009
 研究課題名（和文） メキシコ革命の100年：歴史的総括と現代的意義—国際比較の観点から—
 研究課題名（英文） A HUNDRED YEARS OF THE MEXICAN REVOLUTION: ITS HISTORICAL SIGNIFICANCE AND IMPLICATIONS FOR TODAY'S MEXICO FROM A COMPARATIVE PERSPECTIVE
 研究代表者
 堀坂 浩太郎 (HORISAKA KOTARO)
 上智大学・外国語学部・教授
 研究者番号：80165597

研究成果の概要（和文）：2010年に勃発から100年を迎えたメキシコ革命に関しては、これまで多くの研究蓄積があるが、かつては革命の後継者を標榜する政治勢力が政権を握っていたことから、ともすると党派的議論が展開されがちであった。しかしながら、今日では民主化過程の進展により、その意義について客観的に検討することが可能となっている。本研究は、メキシコ研究者とメキシコ以外のラテンアメリカ地域を専門とする研究者の共同作業を通じ、メキシコ革命の歴史的総括と現代的意義について通時的・地域横断的な再検討を行なったものである。

研究成果の概要（英文）：In relation to the Mexican Revolution an immense quantity of literature has been presented in the course of one hundred years since it erupted in 1910. It was once a politically polemic topic given that the political force which insisted to be its legitimate successor seized the power for a long time. However, the development of democratization in the country has permitted relatively more objective discussion on it. This research program, in which participated not only Mexicanists but also researchers specialized in Latin American countries other than Mexico, has explored the historical process of the Revolution and tried to reexamine its significance and implications for today's Mexico chronologically as well as cross-sectionally.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	5,400,000	1,620,000	7,020,000
2008年度	2,700,000	810,000	3,510,000
2009年度	1,800,000	540,000	2,340,000
年度			
年度			
総計	9,900,000	2,970,000	12,870,000

研究分野：ラテンアメリカ地域研究

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：メキシコ革命、経済社会改革、政治体制、革命党、民主化、映画、イデオロギー、国際比較

1. 研究開始当初の背景

メキシコ革命は、かねてよりメキシコ現代

史の最重要事項のひとつと位置づけられ、メキシコ国内はもちろんのこと欧米各国においても膨大な研究蓄積が存在している。メキシコ革命はきわめて多様かつ多面的な性格を有するものであり、研究が進むとともに、革命の一側面を取り上げてその指摘展開や意義を詳細に記述・分析した研究、また地方史的な手法でミクロな視点から革命の一側面を微細に記録した研究が主流となってきた。これらの研究は、従来見落とされてきた細かな事例、さらにはナショナリズム史観的水座からは軽視されてきた側面に光を当てたものと評することができ、決して軽視できるものではない。

しかしながら、メキシコ革命の包括的理解という点に関しては、それがきわめて政治的ないし党派的イシューであり続けてきたこともあって、議論が限られてきたといえる。例えば「メキシコ革命」とは何であったのかについてはもちろん、革命がいつ終了したのかという基本的な論点についてすら、緒論が並列的に、ないしは一方的に述べられたことはあっても、学問的なコンセンサスが得られているとは言い難い状況であった。

メキシコでは「革命の遺産」を政治的資源としてほぼ独占してきた制度革命党(**Partido Revolucionario Institucional: PRI**)が 2000 年に下野したことから、メキシコ革命の学問的評価・解釈に際しての党派的就縛は薄らいだ。このことから、本研究を開始しようとしていた時期において、メキシコ革命の包括的な理解を図るには望ましい環境が整いつつあったといえる。

2. 研究の目的

本研究は以下の諸点を明らかにすることを企図していた。

(1)メキシコにおける政策決定者が「メキシコ革命」をどのようなものとして捉え、またその名の下に何を實現しようとし、どのような社会の建設を構想していたのかを、同時代的な文脈において理解すること。

(2)国際比較の観点を導入し、メキシコでは革命を通じて対処しようとした各点について、他のラテンアメリカ主要国ではどのような対応がとられていたのかを把握すること。

(3)メキシコ革命が、特に米州各国にどのような影響を及ぼし、またどのような影響を受けていたのか、その相互作用を抽出すること。

3. 研究の方法

本研究は、政治学、経済学、社会学など隣接諸科学の方法論ならびに研究成果を活用

しつつ、現地調査を中心とする地域研究の手法を用いて研究を推進してきた。その際に、とくに意識されたのは、以下のような諸点である。

(1) 現地主義に基づく地域研究的手法の重視：現地の図書館・文書館等における資料探索、現地専門家へのインタビュー調査、フィールドワークなどを積極的に実施した。

(2) 国際比較手法の重視：本研究の特徴は、メキシコを主な研究対象とする研究者のみならず、同国以外のラテンアメリカ諸国を専門とする研究者、さらには比較政治学の分野でメキシコと域外諸国との比較を長きにわたり行ってきた研究者が共同で参画した点である。個別に行った研究の中間成果は、必然的に専門領域・専門地域を異にする研究者の間で討議されることになり、メキシコ革命認識の相対化に資することとなった。

4. 研究成果

本研究は、本年に勃発から 100 周年を迎えたメキシコ革命の包括的理解とその現代的意義の把握を目指したものであったが、その際に、メキシコ国内で議論ないし理解されているメキシコ革命像を把握することはもとより、南北アメリカを中心とする対外関係がメキシコ革命に与えた作用ならびにメキシコ革命が 20 世紀の世界の動向に及ぼした影響をも視野に含めることを通じ、より立体的なメキシコ革命像の構築を企図して研究が推進されてきた。本研究により、わが国におけるメキシコ近現代史の理解にひとつの貢献をなすことができたと考えられる。

本研究の最終的な成果は、2010 年 3 月に刊行した図書（堀坂浩太郎、岸川毅編『メキシコ革命の 100 年 歴史的総括と現代的意義』上智大学イベロアメリカ研究所、2010 年）として取りまとめられた。そこでは、総論「メキシコ革命とはどのような革命か」に続き、石油産業の再編および民主化過程の進展という現代的な事象を「革命の遺産」として捉える 2 論考、メキシコ映画に描かれた革命像を検討することでその捉えられ方の変遷を探る論考、革命期の経済史を通覧する中でそれを「米国モデル」の探求と位置づけた論考、そしてメキシコ革命を台湾の革命党体制およびキューバ革命と比較することにより、メキシコ革命の相対化を図った 2 論考が掲載され、メキシコ革命とそれに続く時代を立体的に捉えることに成功したと考えている。

この最終成果に至るまでには、その中間成果の一部を上智大学公開講座の一環として（「メキシコ革命とは何だったのか—100 年の軌跡と展望—」、2008 年 10 月～2009 年 1 月）広く社会に還元し、その受講者からも有

意義なフィードバックを得ることができた。また 2009 年 6 月には日本ラテンアメリカ学会第 30 回定期大会において 2 つのパネル（「メキシコ革命を再考する」および「革命と現代のメキシコ」）を組織し、そこで中間成果発表を行うとともに、同僚ラテンアメリカ研究者との討議の機会を得ることができた。このように学界および社会一般に対し研究成果を問うたことで一定の問題提起を行うことができたと考えている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 8 件）

- ① 谷 洋之、ラテンアメリカ・レポート、査読有、24 巻 2 号、2007、39-59
- ② 箕輪 茂、イベロアメリカ研究、査読有、29 巻 1 号、2007、51-68

〔学会発表〕（計 10 件）

- ① 岸川 毅、日本ラテンアメリカ学会第 30 回定期大会、革命後体制の構築、2009. 6. 6、東京外国語大学
- ② 谷 洋之、日本ラテンアメリカ学会第 30 回定期大会、相互インフラ体系の建設、2009. 6. 6、東京外国語大学
- ③ ネーヴェス マウロ、日本ラテンアメリカ学会第 30 回定期大会、メキシコ映画における革命：描写から寓話まで、2009. 6. 6、東京外国語大学
- ④ 堀坂浩太郎、日本ラテンアメリカ学会第 30 回定期大会、産油国メキシコに忍び寄る石油危機、2009. 6. 6、東京外国語大学
- ⑤ 尾尻希和、日本ラテンアメリカ学会第 30 回定期大会、キューバ・ナショナリズム：メキシコ革命後のラテンアメリカにおける社会変革の思想と実践の一事例、2009. 6. 6、東京外国語大学
- ⑥ Tani, Hiroyuki, Symposium “Globalization, Food, and Social Identities in the Pacific Region”, From National Symbol to Economic Goods: A Brief History of Maize Consumption in Post-revolutionary Mexico, 2009. 2. 21, Sophia University
- ⑦ Minowa, Shigeru, XXVI Congreso de la Asociación Latinoamericana de Sociología, Crisis de la seguridad pública y la calidad de la democracia en México, 2007. 8. 14, Universidad de Guadalajara, Jalisco, México

〔図書〕（計 3 件）

- ① 堀坂浩太郎、岸川毅編、上智大学イベロアメリカ研究所、メキシコ革命の 100 年

歴史的総括と現代的意義、2010、135

- ② ネーヴェス マウロ、上智大学イベロアメリカ研究所、メキシコ革命の関連するメキシコ長編フィクション映画作品目録、2010、90

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

- ① 谷 洋之（コーディネータ）、メキシコ革命とは何だったのか—100 年の軌跡と展望—、ソフィア・コミュニティ・カレッジ、2008. 10. 7-2009. 1. 6

6. 研究組織

(1) 研究代表者

堀坂 浩太郎 (HORISAKA KOTARO)
上智大学・外国語学部・教授
研究者番号：80165597

(2) 研究分担者

谷 洋之 (TANI HIROYUKI)
上智大学・外国語学部・准教授
研究者番号：40278213

岸川 毅 (KISHIKAWA TAKESHI)
上智大学・外国語学部・教授
研究者番号：60286755

幡谷 則子 (HATAYA NORIKO)
上智大学・外国語学部・教授
研究者番号：00338435

ネーヴェス マウロ (NEVES MAURO)
上智大学・外国語学部・教授
研究者番号：40286753

尾尻 希和 (OJIRI KIWA)
東京女子大学・現代教養学部・准教授
研究者番号：40408456

箕輪 茂 (MINOWA SHIGERU)
上智大学・付置研究所・共同研究員
研究者番号：10407356

(3) 連携研究者
()

研究者番号：